

【再質問（要望）】

一点、知事職務代理人ならびに教育長に要望いたします。

コロナ禍にあって、丸一年が経ちまして、コロナ禍の影響に依りまして、子どもがストレスをためる傾向にあるのではないかということが、大変に心配されると申し上げましたが、今の学校生活というのは、入学式も満足な形で行えない。また、入学してもオリエンテーションが省略した形になっている。さらには、従来おこなっていた、宿泊を伴うような研修も出来ない。さらには、修学旅行さえも中止になっているところもあります。

普通ではない学校生活を強いられている状況の子がおります。

その中で特に気になるのは、本来であれば、色んな行事を通して、心のメリハリを付けたり、また、普段、しゃべらないお子さんと話すことで、友だちの輪が広がったりする機会が、今、極端に減っているのではないかということが大変気になります。それによって、悩みをひとりで抱えこむ子が大変増えているのではないかということが、大変に心配されるところです。

また、ある教育関係者の方からお聞きしたのですが、いま、不登校の生徒がいるのですが、そうした方の問題は、おおむね家庭環境にあります。そのご家庭に行政からの的確な必要な支援の手が十分に行き届いていない。また、行政からの情報発信が届いていないということが原因となるケースが多いという指摘を頂きました。

高齢者介護の質問でも指摘したのですが、行政のコミュニケーションのあり方、これは、問題を抱えるお子さんに対しては、「待ち」のコミュニケーションではなく、「攻め」のコミュニケーションが肝要であると思います。

先ほど、知事職務代理人ならびに教育長の答弁にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの配置を整えて、家庭訪問や保護者への相談活動等の支援を充実させるとありましたが、どうか、「攻め」のコミュニケーションで、こちらから一歩踏み出す、そうしたアプローチで接して頂きたいと思います。

本県におきまして、コロナ禍にあって、社会から取り残されるような不幸なお子さん、ご家庭を絶対に出さないという強い決意で、今後とも、知事部局・教育委員会、しっかりと連携を図って、積極的な支援を図って頂きたいことを強く要望いたします。